

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年9月30日
枚方市立蹠西小学校

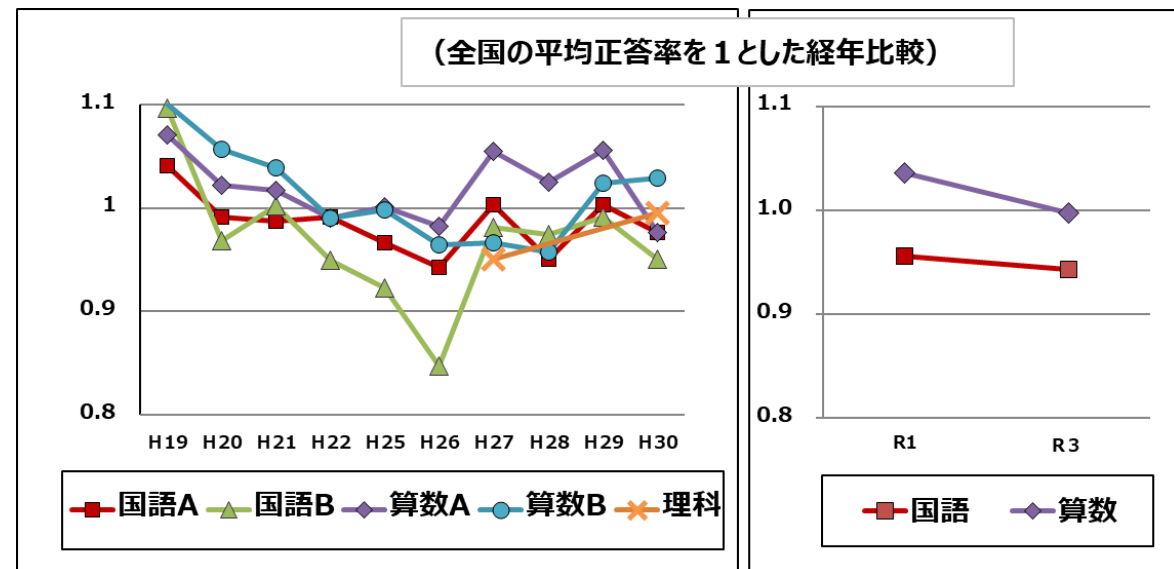
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)



<学力調査結果の概要>

○国語について

→「話すこと・聞くこと」の領域では全国を上回っている一方、「書くこと」「読むこと」の領域で全国を下回る結果となりました。目的や意図に応じて書き表し方を工夫し、自分の考えを主張する文を書く力に課題が見られました。

○算数について

→「数と計算」「測定」「変化と関係」の領域で全国平均を上回りました。全体的に無解答率が低く、本校で課題として取り組んできた記述式の問題においても、複数の問題で全国平均を上回ることができました。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

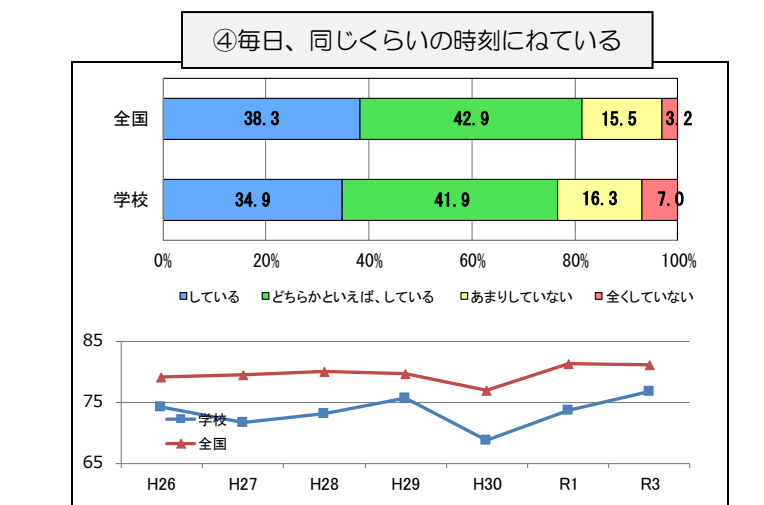
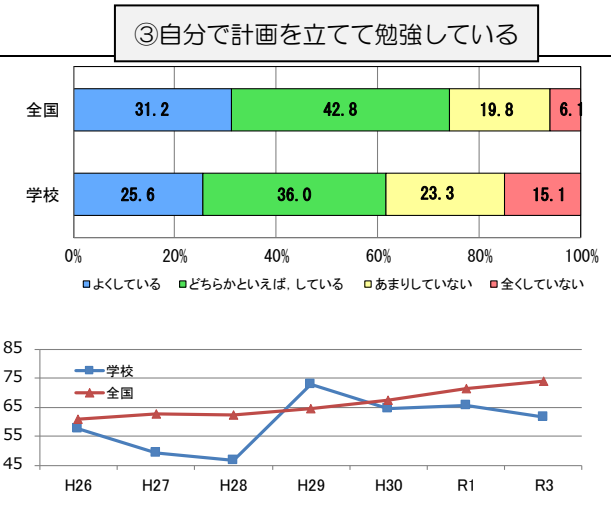
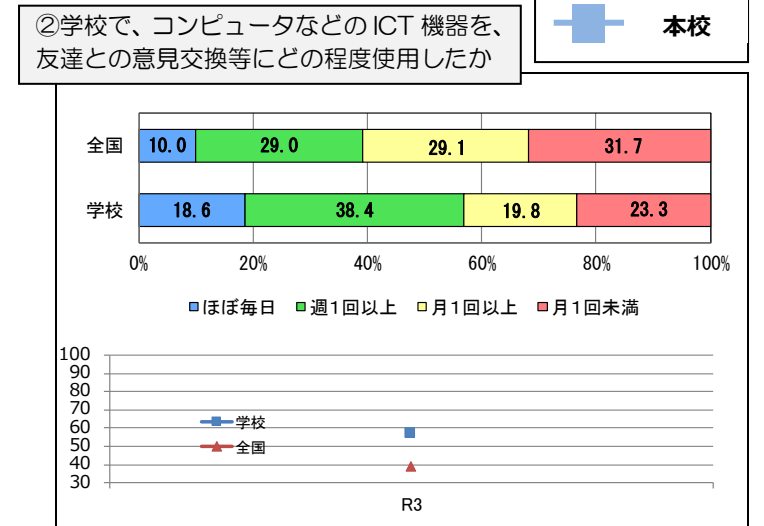
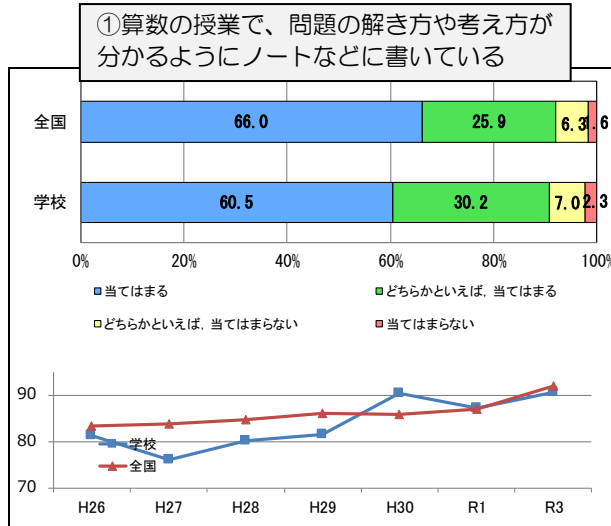
※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校



<質問紙調査結果の概要>

- ① 全国平均をわずかに下回りましたが、90%以上が肯定的な回答をしています。授業改善の成果が表れています。
- ② 感染症の不安から話し合い活動に制限がある中、ICTを活用して意見交流の機会を持ちました。
- ③ 「家庭学習の手引き」を配布し家庭と連携しながら家庭学習を行っていますが、課題の残る結果となりました。
- ④ 基本的な生活習慣に課題が見られました。④の他に「朝食を毎日食べている」の肯定的回答も全国を大きく下回りました。スマートフォンやゲーム、動画の普及により寝る時間が乱れが朝の生活にも影響が出ているように思われます。

まとめ

結果から、算数の記述問題での正答率が上がったこと、さらに国語・算数ともに無解答率が大きく下がったことが今年度の成果として挙げられます。これは、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善から、自分の解き方や考え方を記述・説明させる指導の効果が表れた結果と考えられます。一方で、児童を取り巻く社会の変化から生活習慣の乱れが見られました。生活習慣は、児童の学習への意欲や集中力に影響があると言われています。ご家庭においても、ご支援よろしくお願い申し上げます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

調べたことについて、資料を使ってスピーチをする

1 上野さんは、「スピーチメモ」を作り、「スピーチ」の練習をしています。また、業績を明確に伝えるために、上野さんはどのような構成で話しているかを、その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

2 感想を印象づけられるように、「はじまり」と「終わり」で自分の感想を話している。

3 二つの事実を区別できるように、「はじまり」「中」「終わり」の業績を話している。

4 事実と感想とを関連づけられるように、「中」「中」「中」の業績を話している。

【スピーチメモ】

【はじめ】
 ○話題の提示 (資料①)
 ・新五千円札の題名
 ・津田さんの説明

【中】
 ○津田さんの業績
 ・業績1 (資料②)
 ・業績2 (資料③)
 ・業績3 (資料④)
 女性の英語教師を育成

【自分の感想】

【スピーチ】

（資料①）を示す「みなさん、これを見てください。今度新しい五千円札の「顔」となるのは、津田さんなんです。私は、どのような業績を残した人なのかを調べてみました。

津田さんは、今から約百年前の教育者で、女子教育の発展に力を尽くした人です。日本初の女子留学生として六歳から十一年間、アメリカで教育を受けた津田さんは、女性のための新しい学校を日本につくりたいという夢をもつようになります。津田さんは、社会に出て活躍する女性を育てる教育の実現を目指したのです。そんな津田さんの業績の中から、「中」の二つを紹介いたします。

（資料②）を示す「一つは、「女子英学校」を設立したことです。津田さんは、二十四歳で再びアメリカに渡り、大学で学びます。そして一九〇〇年、三十五歳のときに、日本で学校を設立するという長年の夢を実現しました。これが女子英学校です。今の大学と同じような教壇をする学校です。当時の日本には、女性の通えるこのような学校がほとんどありませんでした。」

（資料③）を示す「一つは、「女子英学校」を設立したことです。津田さんは、二十四歳で再びアメリカに渡り、大学で学びます。そして一九〇〇年、三十五歳のときに、日本で学校を設立するという長年の夢を実現しました。これが女子英学校です。今の大学と同じような教壇をする学校です。当時の日本には、女性の通えるこのような学校がほとんどありませんでした。」

（資料④）を示す「一つは、「女子英学校」を設立したことです。津田さんは、二十四歳で再びアメリカに渡り、大学で学びます。そして一九〇〇年、三十五歳のときに、日本で学校を設立するという長年の夢を実現しました。これが女子英学校です。今の大学と同じような教壇をする学校です。当時の日本には、女性の通えるこのような学校がほとんどありませんでした。」

（問題文省略）

	正答率	無解答率
本校	89.5	0.0
全国	77.5	0.3

（考察）
 話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題です
 自分の考えや伝えたいことを話すスピーチでは、目的に応じて事実と感想、意見とを区別して話の構成を考えることが求められます。これまで、文章の構成に着目して文を読み解く学習、資料を活用するなどして自分の考えを伝える活動に取り組んできた成果が表れたと思われます。
 引き続き、調べ活動や表現活動を大切に、国語科で身につけたことを他教科でも活用できるように指導していきます。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること

1 たけるさんたちは、地域の音の聞こえについて調べるために、博物館と城と図書館へ行きます。

(1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。

2つのコースと道のり

Aコース 博物館 → 城 → 図書館 → 駅
 Bコース 博物館 → 図書館 → 城 → 駅

たけるさんたちは、道のりがBコースより短いAコースで行くことにしました。
 Aコースの道のりは、Bコースの道のりより何m短いですか。
 求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	64.0	1.2
全国	62.5	1.7

（考察）
 示された場面を解釈し、問題解決のために必要な数値を選び、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題です。
 近年課題としている「多くの情報から必要な情報を抜き出し、処理する」「他者を意識し、筋道を立てて説明する」力がついてきたようです。また、算数で学んだことを生活の中でいかしていく習慣をつけることを意識して取り組んできた成果も表れたと思われます。

【課題】

自分の考えを主張する文章を書く

二 丸山さんは、「部活の「そうじ担当の人などがたづねればよい」と考える人を説得するために、「西田さんの話」を用いて「文章の下書き」の「部をくわしく書き進めよう」としています。あとの条件に合わせて書きましょう。

【西田さんの話】（道具置き場のそうじ担当）
 毎日、そうじ担当が協力して道具をたづねています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう、はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることがあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。

（条件）
 ○「そうじ担当の人などがたづねればよい」という考えに反対する意見と、その理由を書くこと。
 ○「西田さんの話」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○六十字以上、百字以内で書くこと。

西田さん

	正答率	無解答率
本校	45.3	11.6
全国	56.6	9.6

（考察）
 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えを伝える文章を書く問題です。
 ここでは、読み手が考えを理解しやすいように、文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりする力が求められています。近年課題として取り組んでいる「児童に記述をさせたり発表させたりするときには、単に表現するだけでなく、伝える相手の意図や目的を考えさせる」ことの重要性が示唆されました。

【課題】

統計的な問題解決の方法を用いた考察

(5) ひよりさんたちは、アンケート調査の結果について、話し合っています。

ひより 図書室には読みたい本が少ないと思っている人や、地域の図書館で本を借りている人が多いことがわかりました。

そうた 図書室でもっと本を借りてもらうために、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、調べることにしました。

そこで、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、調べることにしました。
 5年生と6年生から、どのようなデータを集めるとよいですか。
 下の1から5までの中から、ふさわしいものを2つ選んで、その番号を書きましょう。

1 学校の図書室をよく利用している曜日
 2 学校の図書室に置いてほしい本の題名
 3 学校の図書室をよく利用している時間帯
 4 地域の図書館をよく利用している曜日
 5 地域の図書館で最近借りた本の題名

	正答率	無解答率
本校	66.3	1.2
全国	73.9	1.3

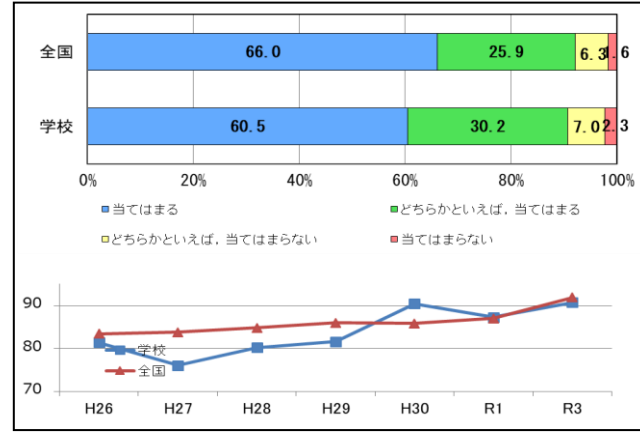
（考察）
 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する問題です。身の回りの事象について、その事象の傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断、考察していくことの重要性が示されています。
 この設問では特に、条件にあわせて複数のデータを選択する力が求められています。情報を取捨選択して、その情報を基に問題を解決していく力が身につくよう、引き続き指導していきます。

質問紙に関する調査

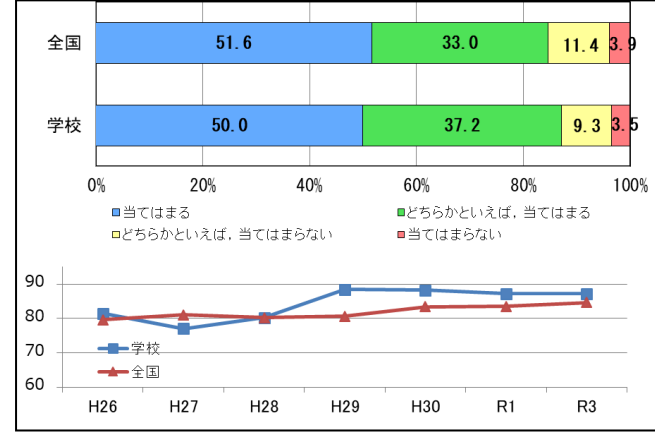
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

【成果のあった項目】

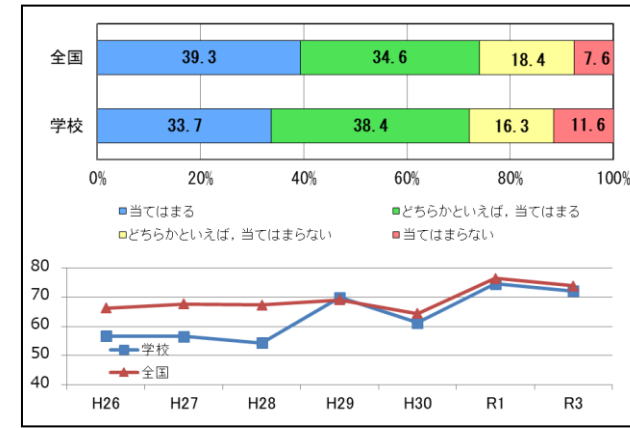
算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートなどに書いている



算数の授業の内容がよく分かる



算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



(考察)

以前から課題のあった、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」の肯定的回答が70%を超えるようになってきました。今後も引き続き、学校と家庭が協力して、学んだことを生活の中でいかしていく習慣をつけていけるよう取り組みたいと思います。

また、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業以外に、普段(月～金)1日あたり1時間以上勉強をする」の項目で、肯定的回答率が下がってきている現状から、児童が興味・関心を持って学習に取り組めるよう支援をしていく必要性が示唆されました。家庭学習ではご家庭での声掛けが大きな助けとなります。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

Hirakata 授業スタンダードに基づいた「主体的・対話的で深い学び」に向けて知識・技能の習得(input)と自分の考え方や解き方の説明や記述(output)を意識した授業改善を進めていきます。

本校では、学力向上の観点から個別指導の充実を目指しています。昼休み、個人懇談期間の放課後に個別指導を行い、「みんながわかる。みんなができる。」を実現していきます。

ICTを活用した授業改善に取り組みます。考えを共有する、協働して問題解決を図る、学習を振り返るなど授業の中でのICT活用を進めることで、より深い学びにつなげていきます。

(2) 学習規律について

チーム蹠陀西小学校として全職員で指導方法を共有し、「枚方スタンダード」の定着を目指します。児童が落ち着いて授業ができる環境を整え、授業に集中できるよう取り組んでいきます。

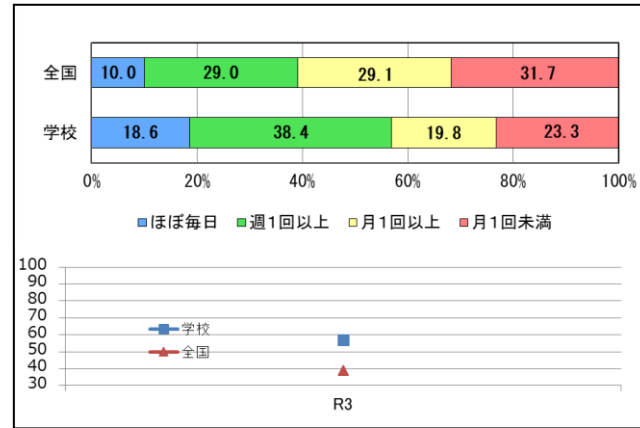
また、朝学習では曜日指定して、算数の基礎計算・漢字学習・読書・外国語学習を学校として統一して行うことで、基礎から応用へ統合的に学力をつけていく習慣をつけていきます。

(3) 家庭学習について

「家庭学習の手引き」に基づき、宿題の定着を引き続き図っていきます。各ご家庭でのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

本校では「自主的に学ぶ力の育成」を重点目標の1つに、学力向上の取り組みを進めています。昨年度同様、自学自習に3年生～6年生で取り組み、学年が上がるにつれて学習の質が上がるように指導しているところです。また、タブレットドリルの活用を進め、基礎的な知識・技能の定着を行います。さらに、今年度も放課後自習教室「やる気ング」を行い、自習力を推進していきます。

学校で、コンピュータなどのICT機器を、友達との意見交換等にどの程度使用したか



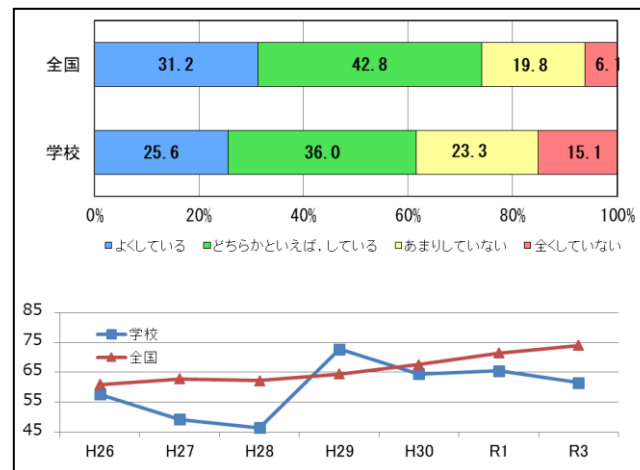
(考察)

学習においては、「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定的回答が90%を超えました。これは、「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善によって自分の考え方や解き方をノートに記述したり説明したりすることを意識した本校での取り組み、指導の効果の表れであると考えます。また、「算数の授業の内容がよく分かる」とする児童の割合が全国平均を上回っていることから、取り組みの成果がうかがえます。

昨年は、コロナ感染症への不安から対話的な学びに制限がかかる中、新しくICTを使用した意見交流の仕方を模索し、実践してきました。そのため、授業でのICT活用の頻度が全国平均を大きく上回る結果となりました。今後は、自主学習や家庭学習での活用の推進にも力を入れ、取り組んでいきたいと考えます。

【課題が残った項目】

自分で計画を立てて勉強している



学校の授業以外に、普段(月～金)1日あたり1時間以上勉強をする

